

白藍塾オリジナル

2026年度 入試小論文分析&解答のヒント

2026年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・総合政策学部

複数の資料の活用が求められているのは例年と同様だが、今年度は「知識人」のあり方がテーマになっている。ただ、傾向としては、昨年度に続いて、SFCの学生としての自覚や資質を試すようなタイプの問題になっていると言っていいだろう。

問1は、資料1～4の要点をまとめることが求められている。資料1～4は現代の著名な知識人自身による知識人論ともいべき文章で、どれもかなり難解だ。まともに要約しようとするの大変だが、設問には「知識人の役割やあるべき姿、知識人に対する批判について～」とあるので、その3点が押さえられていれば十分だろう。実際、どの資料も、その3点についてはかなり明快に示されている（用語などの難解さを除けば）ので、全文要約などしようとしなくて、その3点だけ拾って字数内（各200字程度）にまとめればそれでよい。

問2は、少しややこしい。まず、①資料5を読んで、「福澤諭吉が当時の社会をいかに捉えて何を人々に訴えたのか」を論じることが求められているが、これは高校でも習う有名な文章なので、それほど難しくないだろう。要は、当時の日本を、西洋文明との出会いによって混乱している過渡期の社会と捉えた上で、「社会を良くするために一人一人が自分の意見を主張し、議論を戦わせるべきだ」と言っているわけだ。そうしたことを、最初の段落で簡潔にまとめて示すとよい。

その上で、第2段落以降を2部構成のA型にして、自分が重要と考える社会課題を示した上で、段落を替えてその理由を説明すれば、うまくまとまるだろう。

どんな社会課題を選ぶかは自由だが、出題者は明治維新前後と現代の日本とを平行に捉えようとしていると考えられる。そのため、やはりグローバル化や多文化共生、価値観の多様化が進む一方で排外主義も広まりつつある現代の日本の状況を踏まえて考えるのが正攻法だ。また、次の問3との関連もあらかじめ考えておく必要がある。

問3は、「総合政策学部での学びを通じて、①どのような『社会の先導者』を目指し、②問2で論じた課題にどう向き合っていくか」が問われている。

これについては、問2と同様、まず①の答えを最初の段落で簡潔に示した上で、②をA型でまとめるとよいだろう。

①については、資料6を改めて読むまでもなく、総合政策学部の理念を知っていればそう難しくはないはずだ。②については、問2で取り上げた問題について、どんな学問分野をどんな枠組みで学びながらどのように解決のための実践に結びつけていくか、といったことを具体的に説明すれば

よいだろう。

繰り返しになるが、昨年度と同様、今年度の問題にも、「SFCの学生としてふさわしい資質があるかどうかを見る」という意図がはっきり現れているので、その点をしっかりと頭において考えることが大切だ。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>